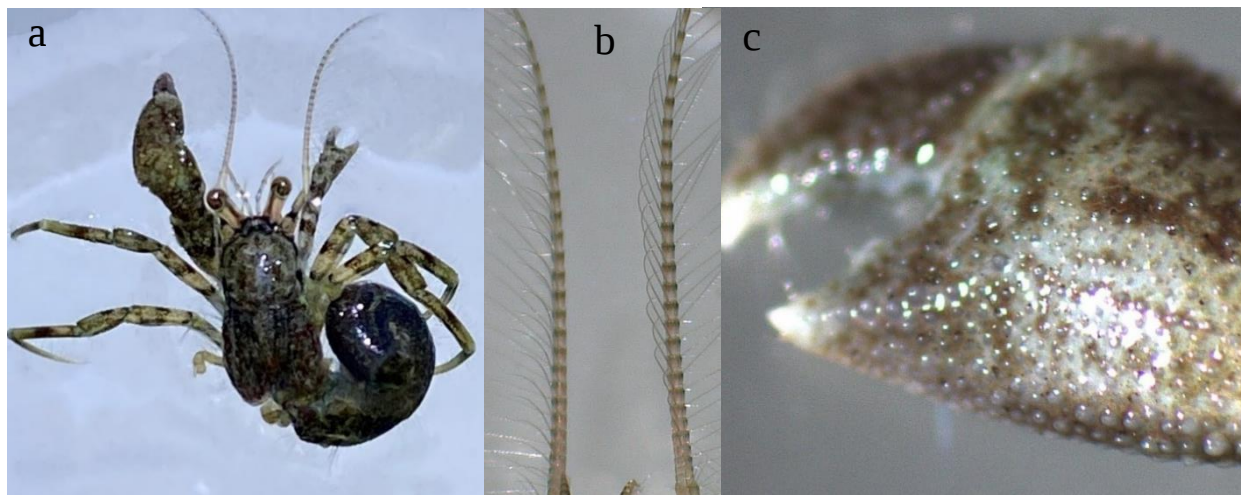


愛媛県愛南町御荘湾で得られたテナガツノヤドカリ

中川孝紀¹・高木基裕²¹ 愛媛大学大学院農学研究科² 愛媛大学南予水産研究センター写真1 *Diogenes nitidimanus* テナガツノヤドカリ (TKPM-AR 3239). a: 全身, b: 第2触角, c: 左鉗脚掌部

種の記録

Diogenidae ヤドカリ科

Diogenes nitidimanus (Terao, 1913)

テナガツノヤドカリ (写真1)

標本 徳島県立博物館節足動物標本 (TKPM-AR) 3239–3242 (4 個体, 全て♂). 採集年月日: 2024 年 9 月 16 日. 採集場所: 愛媛県愛南町御荘湾 (32.9503 N, 132.5503 E). 全長: 11.4–15.4 mm, 頭胸甲長: 3.3–4.3 mm.

種の特徴

標本はいずれも、大潮の最低潮位時に、水際の干出した場所で採集された。第2触角は櫛状であり (写真1b), 鉗脚の掌部は細長く、掌部外側は顆粒が散在し、下縁に2条の顆粒が列生する (写真1c)。上記特徴はトゲトゲツノヤドカリ *Diogenes spinifrons* と類似しているが、鉗節の外側全面に棘が散在 (三宅, 1982) しないため、本種と同定した。

備考

個体はいずれも、大潮の最低潮位時に、水際の干出した場所で採集された。テナガツノヤドカリは大鉗が性的二型を示し、メスはオスよりも小型であるが、掌部は幅広い (Asakura, 1987)。標本の大鉗は4個体ともに大きく、オスの特徴を示した。また、オスの大鉗につ

いては幅広い掌部を持ち、その表面が多くの小棘や顆粒で覆われるタイプと、幅の狭い掌部を持ち、その表面が不規則な小顆粒で覆われるタイプが報告されており (Asakura, 1987)、標本は後者に類似していた。本種は愛媛県ではこれまで西条市と今治市から報告されており (家山・西尾, 1987)、本報告は愛媛県南予地方での初記録となる。

引用文献

- 三宅貞祥. 1982. 原色日本大型甲殻類図鑑 I, 保育社. 212–213.
- 家山博文・西尾知照. 1987. 愛媛県沿岸の潮間帯・潮下帯のヤドカリ相. 愛媛大学教育学部紀要 自然科学, 8:109–113.
- Asakura A. 1987. Polymorphism in the chelae of *Diogenes nitidimanus* Terao (Decapoda: Diogenidae). Researches on Crustacea, 16: 33–38.

(2024 年 11 月 21 日受付, 2024 年 11 月 24 日公開)

連絡先: 高木基裕 (e-mail: takagi.motohiro.mc@ehime-u.ac.jp)

(Takanori Nakagawa and Motohiro Takagi. 2024. First record of *Diogenes nitidimanus* (Diogenidae) from Misho Bay, Ehime Prefecture. NS Fieldnote, 24015)